

「ケーススタディ／注目の介護保険外サービス」

脳血管疾患から現役復帰を目指す人向けの リハビリセンターを拡充

（株）ワイズ／脳梗塞リハビリセンター

脳梗塞など脳血管疾患の患者は現在約150万人。2025年には300万人に達し、退院後リハビリが必要な患者は約150万人に及ぶと予測される。株式会社ワイズは、この150万人をターゲットとした事業モデルとして、病院でもない、デイサービスでもない、まったく新しい自費リハビリサービス事業「脳梗塞リハビリセンター」を立ち上げ、軌道に乗せた。

現役世代の社会復帰を主体とした 新しい自費リハビリサービス

脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など脳血管疾患）で倒れると、死に至るケースも少なくないが、現在およそ半数の患者が後遺症を抱えて暮らすという。具体的には上下肢麻痺、拘縮、痙縮等の運動機能障害、脳の損傷部位により言語障害や記憶障害、嚥下障害、注意障害、遂行機能障害など高次脳機能障害等で、多くは急性期・回復期病院（リハビリ専門病院等）で健康保険によるリハビリを受け、維持

期になると、介護保険でADL維持・改善のためのリハビリを受ける。「ここで課題となるのが退院後のリハビリ環境です」と同社代表取締役会長兼CEOの早見泰弘氏は、「脳梗塞リハビリセンター」開設の狙いを語る。

「現状の制度では、入院中のリハビリは適応日数に最大180日の上限があり、退院後の外来リハビリも週1回40分程度と、リハビリに要する時間も量も不足しています。維持期には介護保険施設の老人保健施設やデイサービスでリハビリを受けますが、集団リハビリであることや、脳梗塞専門セラピストの不足で、脳血管疾患の後遺症に対する個別性の高い機能訓練が十分にできません」と現行制度の課題を指摘する。そこで「医療保険と介護保険の隙間を埋める第3の選択肢」として、「脳梗塞リハビリセンター」を創設したという。

同社は並行して、「いつまでも自分の足で歩く」をテーマに、リハビリ特化型

デイサービス「アルクル」を都内5カ所で展開。14年3月～16年6月までの延べ利用者数は約6000人と順調に拡大してきたが、事業をやってみて、①介護報酬には定期的な見直しがあり、減額が続く、②脳梗塞後遺症を抱えた人が多く、

40歳代～60歳代の若い利用者も多い、③グループリハビリ中心で、個別機能訓練の時間が少ない、などの課題があることに気づくとともに、多くの利用者から、「もっとリハビリをしたい」「マンツーマンで症状・状態に合わせたリハビリを」といった切実な声が寄せられた。早見氏は大学在学中からIT関連企業の営業職に従事、その後インターネット会社を設立し、海外企業の役員も務めるなどしたが、13年に椎間板ヘルニアで入院、歩行困難となった。自身、歩けなくなったことで一時は精神的にも落ち込んだが、リハビリに取り組むなどで、前向きな気持ちを取り戻し、さらに筋力改善も早期回復につながった経験をもつ。「この経験を



代表取締役会長兼CEO
早見泰弘氏

活かしてアルクルを開設しましたが、それだけにご利用者の回復・改善への意欲は痛いほど理解できます。たとえば医師や建築士、営業社員、楽器奏者、寿司職人など、若くして発症したの方も現役復帰への意欲はたいへんなものでした」と語る。実際、20歳代～60歳代の「脳卒中経験者の生活調査」（マクロミル調査）というデータでは、退院後のリハビリ希望は「維持でなく改善したい」が73%、「自費リハビリを受けたい」が69%と高い割合を占めている。

早見氏の決断は早かった。「脳梗塞リハビリセンター」を立ち上げるか、アルクルを拡充するか、社内でも激論となりましたが、結果は脳梗塞リハビリセンター



完全マンツーマンで自費のリハビリサービスを提供

■別表 「脳梗塞リハビリセンター」の基本メニュー／実施時間／費用

基本メニュー	実施メニュー	実施時間／費用（税別）
身体リハビリコース	・鍼灸 ・理学療法士または作業療法士による施術 ・身体トレーニング	体力や体調に応じ2時間程度 1万5,000円／1回
言語リハビリコース	・鍼灸 ・言語聴覚士による施術 ・言語トレーニング	
身体・言語リハビリコース	・鍼灸 ・理学療法士または作業療法士による施術 ・言語聴覚士による施術 ・トレーニング	体力や体調に応じ3時間程度 2万円／1回
言語聴覚療法	言語聴覚士による施術	40分 5,000円／1回、 60分 7,500円／1回
脳卒中リフレクソロジー	セラピストによるリフレクソロジー	50分 5,000円／1回
初回限定プログラム体験	「身体リハビリコース」または「言語リハビリコース」	体力や体調に応じ、2時間程度 5,000円／1回

※退院直後に行なう短期集中プランもある。鍼灸は併設する鍼灸院で実施する。

でした」。やるならいまの日本にないものをと、東京大学医科学研究所・上昌弘特任教授を社外取締役に迎え、役員陣を専門家で固め、スタッフも国家資格保有者を中心とするなど、強固な経営体制を敷いた。コンセプトも、①現行の社会保障制度の隙間を埋め、②個々の症状や目標（社会復帰など）に即応した施設と位置づけた。主な対象者は、20歳〜60歳代の働き盛りの人、退院後もリハビリを希望する人、家族に負担をかけたくない人など、現役復帰を望むすべての脳血管疾患後遺症に悩む人々を対象とする。

施設は14年9月開設の本郷（東京都文京区）にはじまり、15年5月までに新宿（同新宿区）、三田（同港区）、川崎（神奈川県川崎市）、西船橋（千葉県船橋市）と5カ所を直営でオープン。利用者数は今年7月までで累計1000人超、1人当たり月間平均利用回数は3回。「特筆すべきは70〜80%に達するリピート率の高さで、私も驚きました。ご利用者は全国からみえますが、こうした施設が少ないため、大阪や名古屋などから通ってこられる方もいます」と話す。同社で行なった「利用者／資料請求者に関する属性」調査によると、利用者のエリアは95%が首都圏だが、残りは全国に及ぶ。「知ったきっかけ」は、Webが85%と最も多く、ケアマネジャーの紹介11%、病院からの紹介4%と続く。病院からの紹介例では有名な

リハビリテーション病院が名を連ねる。「リハビリ病院と私たちの相性はよく、競合しません。私たちは1回2時間、完全マンツーマンで徹底的に施術すること、病院と差別化し、退院後の受け皿になつていくからです」という。利用者の年代は30歳代〜60歳代が7割、寝たきりを予防する70歳代21%、80歳代6%と、現役世代が中心だ。

プログラムは病院やデイサービスとは異なるものを用意。基本メニューは別表のとおり。完全予約制で身体リハビリ、言語リハビリ、身体+言語リハビリ中心に各コースがある。時間と費用は、2時間1万5000円。QOL向上を目指す機能改善リハビリや脳の機能障害を克服する目的で開発されたオリジナルの「リハセン式活脳プログラム」に基づき、最先端のリハビリを保険制限なしで自由に受けられる。ノウハウは「リハビリ評価シート」（「リハセン式1・2・3 Step UPシート」）で、これは延べ1万人以上のリハビリ項目と改善状況を可視化した評価メソッドで、詳細は公表していないが、「専門家の知見をもとに多くの時間をかけて開発しました」（早見氏）という。「卒業」までの期間は6〜9カ月で、キーボードを打てるまでに改善した50歳代のエンジニア、社会復帰した30歳代のタクシー運転手、ゴルフができるようになった70歳代の主婦、株主総会議長への復

婦を目指している上場企業会長ほか、すでに集中リハビリによる多くの成果が出ているとのこと。

スタッフは、理学療法士、作業療法士、鍼灸師、言語聴覚士、運動療法士など国家資格保有者が8割強を占める。1店舗（約30坪）当たりの収入は、1日最大16人×1万5000円＝24万円という。営業は毎週月曜〜日曜日の9〜19時。月額は700万円超となり、同社のアルクルとの売上比較では約3倍となる。

今後は首都圏、大阪を中心に年間5カ所の新店を計画する。さらに引き合いが多くなった病院や介護事業者との「ライセンス契約」での新店も検討中で、25年に向け、急展開する可能性を秘めている。

会社概要

会社名	株式会社 橋ワイス
所在地	東京都中央区新富 2-7-4 吉本ビル 5階
設立	2014年2月
資本金	3億3,562万3,000円（資本準備金含む）
代表者	代表取締役会長兼 CEO 早見泰弘
従業員数	103人（2016年7月現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリ事業（10店舗） 脳血管障害特化型リハビリ施設、リハビリ&フィットネス型デイサービス ●ヘルスケア事業（6店舗） 鍼灸整骨院、リラクゼーションサロン、訪問マッサージ